７世紀に築かれた大和川水系にある日本最古のダム形式のため池

狭山池(大阪府南部の大阪狭山市)を久しぶりにたずねました　2017.3.14.

南側の西除川（天野川）と三津屋川（今熊川）の合流点付近を眺める
狭山池東側堤より　**2017.3.14.**

■ 古代土木技術のモニュメント　約1500年前に作られた巨大なダム湖　狭山池
その堰が今もしっかりと堤を支えています

和鉄の道・Ironroad　2008.2.5. 狭山池の訪問記　by Mutsu Nakanishi　より
http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/h2002.htm

現在の狭山池と巨大な堰　2008.1.31.　写真奥に葛城・金剛の山並み

2008年１月３１日古代史の仲間と「発掘された日本列島2007」展が開催されている近つ飛鳥博物館とともに狭山池博物館　弥生文化博物館の３つの博物館をめぐるバスツア。
びっくりしたのは　狭山博物館。　以前から一度行きたいと思いながら行けなかった狭山池。
約１５００年前に高さ１０数メートル築かれた堤がその中に埋め込まれた樋とともにそっくりそのまま残っている。 しかも、この堰はほとんど粘土といっていい細かい土をつき固めて、幾重も積み重ねて作られている。
「土だけで、よう　持つものだ」とびっくり。もっとも　それはそれで、きわめて緻密な技術が使われていると学芸員の人から教えてもらいました。

狭山博物館に展示されている堰の実物断面

狭山池は、池の東奥遠くに葛城・金剛山を眺める丘陵地の二つの谷の間を流れる川の間をせき止めて作られた大阪狭山市にある日本最古のダム式ため池。
7世紀前半（616年か？）に築造されたとされ、『古事記』・『日本書紀』にもその名が記されている。
8世紀、行基13世紀、重源による改修など幾度となく改修が重ねられ、平成の大改修）でダム化するとともに、池の周囲は公園として整備されていてる。

１９８８年　平成の大改修時に樋や堤体の構造が、詳しく調査され、東樋の年輪年代測定結果から、7世紀前半につくられた日本最古のため池であることがわかった。
また堤体の盛り土が幾層にも積まれ、その1部に植物層を含む層があることが判明し、中国や朝鮮から伝わった敷葉工法（しきはこうほう／葉のついた枝を土留めに使う工法）が用いられていることがわかった。

建築物や出土した遺物に　どうしても、古来からの日本人の知恵・技術を見がちですが、
一度　ぜひ出かけていってみる価値のある
古代の土木技術のモニュメントです。

平成の大改修前の狭山池

平成の大改修後の狭山池

和鉄の道・Ironroad　2008.2.5. 狭山池の訪問記　by Mutsu Nakanishi　より
http://www.infokkkna.com/ironroad/2008htm/h2002.htm

左: 南　西除川（天野川）と三津屋川（今熊川）の 合流点付近 & 右: 狭山池東側堤より　狭山池北側を眺め

左: 狭山池西側　池の中に狭山池神社　　右: 狭山池北側中央　狭山博物館を眺める

南側の西除川（天野川）と三津屋川（今熊川）の合流点付近を眺める
狭山池東側堤より　2017.3.14.

狭山池博物館に移築展示されている堤体の断面と
堤体下に発掘された樋管。

敷葉工法で築かれた古代の狭山池堤体の断面概略と発掘された下層東樋

【参考資料】
第187回河内文化を語る会資料植田隆司「飛鳥時代から生き続ける狭山池」平成２７年１１月１９日（木）
http://www.japanriver.or.jp/kataru/kataru_report/pdf/no187_resume.pdf